

地域の将来を見据えた法人化で経営規模を拡大 (有限会社ライフ)

<法人の概要>

所在地：北海道空知郡南幌町

設 立：平成15年2月

資本金：810万円 売上高：1億2,759万円（平成26年）

構成員（議決権）：農業従事者5名（100%）

役 員：5名（うち農作業従事5名）

従業員数：常時雇用者9名

経営面積：137.1ha（うち所有52.8ha、借入87.4ha）

作付作物：米53.5ha、小麦44.3ha、大豆14.3ha、キャベツ9.2ha、てん菜9.0ha ほか



キャベツの定植作業



キャベツの収穫

<営農を開始するまでの状況>

- ・平成13年に、農協からてん菜の直播栽培導入に向けた話があり、5戸で勉強会を開催するうちに、将来の営農方向についても話し合うようになった。
- ・後継者不足などで将来の営農継続に対する不安があり、転作として大豆やてん菜など新たな作物の導入を考えていたが、機械や施設の導入、転作作物に係る作業は個人対応より共同組織の方が対応しやすいと考えた。
- ・経営費用に関する試算を行った結果、任意組織より法人化した方がコスト軽減できることが明らかになったことから、法人を設立することとなった。
- ・法人化にあたっては、現状の面積だけでは経営が厳しいことから、賃貸や購入で農地を拡大していくことや、役割分担を明確にして作業効率を高めること、構成員の得意な技術を生かした作付構成等にすることを検討した。また、構成員の妻5名については従業員として雇用することとした。
- ・1年半ほど協議を重ね、平成15年2月に5戸で有限会社ライフを設立。計画的な輪作体系による土地利用型農業を目指して、経営面積約70haでスタート。
- ・平成16年と19年に構成員の後継者が従業員となったほか、平成20年に外部から1名、平成22年には元農家の夫婦2名を従業員として雇用した。

＜特徴的な取組＞

- ・ 特別栽培米を生産し、約130戸の消費者と契約・宅配している。
- ・ 町内の高齢農家の農作業受託や離農農家の農地を引き受け、農地の受皿となっている。
- ・ 繁忙期に市街地の主婦層をパート雇用し、地域の雇用の受け皿となっている。
- ・ 町内の複数の法人と協力し、天候不順による販売物の欠品などが起きないように努めている。
- ・ 稲わらを自社でたい肥化し、半量は水稻・てん菜のほ場約20haに施用、半量は飼料として管外の畜産農家に販売するなど、循環型農業、耕畜連携を実践。
- ・ 農業大学の研修生を毎年受け入れており、北海道職員の農業研修や、地元中学生の職業体験の受け入れも積極的に行っている。
- ・ 平成25年からは、GPSガイダンスを利用した施肥、防除を行っている。
- ・ 組織体制は5部制をとり、夏期と冬期で就業時間を変更。65歳定年制としている。

＜今後の農業経営の展開方向＞

- ・ 若い従業員が加入したことから、現在保有している労働力や施設の能力を考慮すると、農地は現在の136haから150haまで拡大可能と考えている。
- ・ 若い従業員4名を役員候補として役職を持たせ、10年ほど後に訪れる現役員の定年時までには、徐々に経営継承を図りたいと考えている。

＜今後法人化を進めようとしている方へのアドバイス＞

- ・ 組織の運営に当たっては、個人の人権を尊重するとともに、馴れ合いにならないことが必要。
- ・ 毎朝のミーティングを徹底すること。
- ・ 人材、資金、資産など、運営全般に対し、じっくり話し合って合意形成を図ることが一番大切。



中学生の農業体験受け入れ



たい肥の散布作業